

9. 入院患者における立位・立ち上がり練習の工夫

—部門間連携による膝折れ防止クッションの制作—

病院リハビリテーション部 再生医療リハビリテーション室 島袋尚紀

病院リハビリテーション部 再生医療リハビリテーション室 愛知諒

病院リハビリテーション部 再生医療リハビリテーション室 大松聡子

学院義肢装具学科 星野元訓

病院リハビリテーション部 清水健

立位・立ち上がり動作は、日常生活動作（ADL）の諸動作の構成要素の一つであり、立位・立ち上がり能力の差違がADL自立度に影響を与えることは多く報告されている。一方、疾病・障害により車椅子で生活する中枢神経疾患患者においても、四肢や体幹の一部には機能残存を有しており、立位・立ち上がり能力の潜在性を秘めている。しかし、四肢・体幹麻痺症例で立位・立ち上がり練習を実施する際には、一般的に長下肢装具が用いられるが、装着の手間や介助者の負担が大きいことから、入院中の訓練のみに留まることが現状である。そこで、当院理学療法（PT）と作業療法、義肢装具部門とともに、自宅での立位・立ち上がり動作の機会の増加および、簡便かつ安全な自主練習方法の確立を目標に他職種協働を行った。介入内容としては、下肢の不安定性を呈した入院患者4症例に対して、市販化されている歩行車（日進医療器株式会社、トレウオーク）をベースに、これに各症例の身体機能に応じた膝折れ防止クッションをオーダーメイドで制作した（図1、2）。そして、4症例すべてにおいて立位・立ち上がり動作が可能となり、さらに同様の環境調整を行えば退院後の自宅生活においても、自主練習の継続に至った（図3）。本発表では、膝折れ防止クッションの制作における部門間連携の概要、退院後の症例に対して膝折れ防止クッションが納品に至るまでの流れを紹介するとともに、今後、当院での運用形態についての展望を報告する。



図1 日進医療器株式会社
トレウオーク



図2 オーダーメイドで制作した
膝折れ防止クッション



図3 歩行車と膝折れ防止
クッションを利用した
立位練習の風景